

技術文書審議タスクメンバーの評価結果

	風間	糸井	香川			竿本	仙頭	大矢	西		
			1部	2部	3部				1部	2部	3部
有用性	3	2	4	4	4	4	3	4	4	4	3
信頼性	2	2	3	3	3	3	3	2	4	4	3
完成度	3	3(1)*1	3	3	3	3	2	3	4	4	3

4. ある, 3. ややある, 2. さほどなし, 1. ない

*1: 1月19日に開催した技術文書審議タスクに提出された評価では1であった。

審議における意見交換を踏まえ、今後適切に修正される見通しがあることが確認されたため、3に修正した。

技術文書審議タスクメンバーの評価結果

技術文書としての妥当性	第1部	第2部	第3部
5.妥当である.			
4.軽微な修正はあるものの妥当性である.			
3.適切な修正は必要であるものの妥当である.	✓	✓	✓
2.修正事項に対する適切な対応が行われていることを確認することが必要である.			
1.技術文書としての発行する段階に至っていない.			

- ◆ 技術文書審議タスクにおける審議の結果, 第1部, 第2部, 第3部でそれぞれ技術文書としての妥当性を評価することとなった.
- ◆ 審議の結果, 第1部から第3部とも, 妥当性評価3とした.

各項目の講評(一部抜粋)

有用性	<ul style="list-style-type: none">• 実務者の参考になる内容が含まれている.• 有用な記載と不正確な記載が混在している.• 今後の研究開発において, 今回のように技術資料を作成することは大変有用.• 課題が抽出される一方で, 課題に対するアクションプランが不明瞭.• 課題抽出と対応策はセットであることが望ましい. 何年までに何をするとといった計画案が盛り込まれることが望ましい.• 実務者の困難な課題に対して, 貴重な実験・解析事例を提供している.
信頼性	<ul style="list-style-type: none">• 考え方・ロジックがおかしい内容が含まれている.• 有用な記載と不正確な記載が混在している.• 引用される文献のほとんどが, 委員会委員のものに偏っている.• 基礎地盤や断層変位の部分の一般論や技術動向レビューの箇所では, 広く文献を収集・解説されることが望ましい.• 内容は現状の技術水準をカバーしている.
完成度	<ul style="list-style-type: none">• 体系化が図られており, 完成度は高い(2部).• 体系化が図られている状態までとはいっていない(1~2部).• 本研究の完成形が提示されていないため, 完成度に対する進捗がどの程度か不明.• 技術文章の位置付け, 結果の解釈等で誤解を招く箇所があり, 改善が望まれる.

意見総数と修正が必要な意見数

	風間	糸井	香川	竿本	仙頭	大矢	西	合計
意見総数	13	36	55	32	40	21	5	202
修正が必要な意見数(Aの数)	4	32	4	4	11	12	1	68

意見分類:

A)修正が必要である.

B)修正が望ましい.

C)記号, 図表, 単位系の誤りなど修正が必要である.

D)その他

今後の技術文書審議スケジュール(承認)

- 審議結果は2月9日に開催する第3回原子力土木委員会に報告し、委員会としての総合評価を実施する。その結果は、担当幹事より小委員会、技術文書審議タスクに報告を行う。
- その後の手順
 - 小委員会は適切な修正対応を実施し、担当幹事を介してその結果を技術文書審議タスクに報告。
 - タスクは修正の妥当性を判断し、その結果は、担当幹事を介して原子力土木委員会に報告し、委員会として技術文書を承認。
 - 技術文書審議タスクが担当幹事を支援して外部意見照会を実施。

技術文書の意見照会は、提案の土木学会における地震工学委員会、地盤工学委員会、岩盤力学委員会の3委員会とする
 - 意見は担当幹事が集約し修正の要否を判断したのち、原子力土木委員会および小委員会に報告し、適切な修正対応を実施する。